

岐阜県支部

岐阜県における外国人労働者雇用に関する調査研究

第1章 県内の人口と外国人登録者数

岐阜県内の平成18年末の外国人登録者割合は、全国平均よりかなり高く、なお増加傾向にある。統計資料から外国人登録者の出身国別、登録している市町村別、男女別や年齢別の特徴について調査をした。これらの結果、県内の労働力のかなりの部分が若い外国人労働者に支えられている状況が明らかとなった。

第2章 外国人労働者雇用のための法的背景

在留資格別に働ける外国人と働けない外国人があるほか、日本の労働関係法令、保険制度、労働者派遣と請負の違い、外国人研修・技能実習制度等、外国人労働者を雇用するための法的背景を調査した。

第3章 アンケート調査から見た県下の外国人労働者の状況（雇用者サイド）

岐阜県内の97企業先を対象としたアンケート調査を行った。その結果、繊維産業に外国人雇用が多く、外国人労働者の内約7割が女性で、20代の若い労働者が多いなどが明らかとなった。

雇用経路、賃金、雇用年数等に加え、雇用者サイドから見た、外国人労働者を雇用する利点、問題点、今後の雇用方針等についても調査をした。

第4章 県内企業に働く外国人労働者のヒアリング（労働者サイド）

中国人7名、タイ人4名、フィリピン人1名、ブラジル人2名の合計14名の外国人労働者に、来日目的、滞在期間、仕事や生活で困る事、将来の夢等についてヒアリングを行い、労働者サイドからの意識を調査した。

第5章 県内外国人労働者の実態と今後の方向性

第4章までの調査の結果、以下5つの新たに生じた疑問点について考察を行った。疑問点と考察結果概要は以下の通りである。

①岐阜県の外国人登録者数が、多いのは何故だろうか

- ・製造品出荷額の全国一多い愛知県と全国10位の三重県に近いという、岐阜県美濃地方の地理的特性が労働市場に影響している。

②朝鮮・韓国出身者が減少傾向にあるのに、中国、フィリピン、南米の外国人が増加しているのは何故だろうか

- ・韓国の経済発展に伴い、韓国人の日本への労働者流入が減少しており、中国人については研修・技能実習制度、ブラジル人については入管法の改正により流入が増加している。

③本当に、日本人労働者は不足しているのだろうか

- ・絶対数が不足しているとはいえないが、事業者の要求する人材と労働者が希望する仕事との

ミスマッチの存在が根底にあると考えられる。

- ④このペースで外国人労働者が増加すると、今後どのような問題が生じるのだろうか
- ⑤中小企業の経営者は、どのようなスタンスで外国人労働者を雇用していくべきだろうか
 - ・外国人労働者の増加に伴い生じてくると思われる問題点と、経営者や地域社会全体がこの問題に対し今後取るべきスタンスを考察した。